平成２９年度　第５回
西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録（確定稿）

■開催日時：平成３０年１月５日（火）１８時００分～１９時３０分
■開催場所：田無総合福祉センター４階　第３会議室
■出席委員：大高則明、小野修平、冨澤佳代子、野崎信行、阿壽子、渡辺裕一
＜以上６名、敬称略、五十音順＞
■出席役職員：佐藤文俊、小平勝一、飯塚和幸、嶋田孝雄、長山清美

資料　１：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(平成 29 年 11～12 月)
資料　２：コーディネート状況等月次報告(平成 29 年 11～12 月)
資料　３：ボランティアコーディネート実績(平成 29 年 11～12 月)
資料　４：平成 29 年度西東京ボランティア・市民活動センター予定表（平成 30 年 1～2 月）
資料　５：平成 29 年度第４回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録（未定稿）案
資料　６：ボランティア活動者の懇談会　事業実施企画書
資料　７：西東京ボランティア・市民活動センターの５つの取り組み（５つの柱）
資料　８：西東京ボランティア・市民活動センターの５つの取り組み（５つの柱）　ポンチ絵
資料別紙：ぼらんてぃあ倶楽部　第１００号
資料別冊:平成 29 年度第３回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録（確定稿）

１．報　告　事　項

(1)．業務報告(平成 29 年 11 月・12 月)について（資料１～３）

・お弁当を届ける依頼が辞退されたのは、どのような内容か。
　→地域包括支援センターから問い合わせがあって、市民からの依頼を受け付けたものだが、依頼者の気持ちが変わって辞退となったものである。

(2)．軒下ふれあいバザーの実施報告について

・昨年度より参加団体が２団体減少した。
・来場者が少なく見えたが、参加団体の売り上げは例年並みの状況であったとのこと。
・来場者が少ない傾向が見受けられるので、広報の工夫が必要である。
・どのような趣旨でバザーを行っているのか。
　→企業との連携と地域のみなさんに参加団体や施設を知っていただくことを目的として行っている。また、参加団体や施設の活動資金づくりも１つの目的となっており、地域とのつながり作りを念頭に入れたものとなっている。
　→マックスバリュができた際に、この地域で社会貢献をしたいという企業側の声を受けて、施設への寄附と併せてバザーを行うようになったと思われる。
・マックスバリュが行っている黄色いレシートキャンペーンの紹介をもっとできれば、より一層の協力が得られるのではないか。
・マックスバリュの場所は田無地域にあるが、保谷地域でも開催できないだろうか。現在の場所は、保谷地域から行きにくいので、保谷駅のコンコースなど新たな場所を開拓してはどうか。

(3)．業務予定(平成 30 年 1 月・2 月)について（資料４）

＊特にご意見無し

２．審　議　事　項

(1)．平成 29 年度第 4 回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録（未定稿）案について（資料５）

＊一部修正を行い、確定稿とすることについて承認される。

３．協　議　事　項

(1)．ボランティア活動者の懇談会について（資料６）

・実際に依頼者からボランティアに対し、難しい相談をされることがあるのか。

→傾聴ボランティアで訪問した際に、片づけを頼まれるなど傾聴活動以外の活動を、現場で依頼されることがあった。

・傾聴ボランティア活動において、見守り活動を念頭に依頼されている施設もある。ヘルパーでもないので、面倒を見たり、見守りをすることはできない旨を施設側に話すこともある。そのようなことをわかってもらえるような働きかけをボラセンにもお願いしたい。

・傾聴ボランティアに関しては職員の意識がしっかりしていないといけないだろう。生活が流れている所での住み分けは難しいと思うが、時間を区切って提供できるようにする必要がある。

・職員が忙しいのもわかるので協力したい部分もある。いろいろなことをお互いにわかりあえるようにする必要がある。

・ボランティアの皆さんも色々な悩みを抱えているので、この講座の需要はあるだろう。

→ボランティア活動する人は良い方ばかりなので､なかなか断ることもされない場合がある。いま話しが出たあたりのことも話しがあると思われるので楽しみにしてほしい。

・登録ボランティアへの周知がメインになるのか。

→把握しているボランティアグループ・市民活動団体にも案内をする。

・目標の３０名に届きそうか。参加者３０名のイメージはあるか。

→関心を持ってもらえれば３０名には届くと思われる。今までにない、新しい講座なので、多くの方に関心を持ってもらえると考えている。

・これまでの懇談会の参加者数はどうだったか。

→多くは１５～２０名程度だった。懇談会だけだと参加者数が伸びない傾向がある。
また個人登録ボランティアも一人だと参加しづらい傾向もあった。今回から団体も併せた実施するので、場は盛り上がると思われる。

・案内するボランティアグループはどのくらいあるのか。

→センターで把握しているボランティアグループ、市民活動団体は９５前後ある。

・９５団体あると、３０～４０名となるとすぐに集まってしまうのではないか。

→ツボを得ているとすぐに集まるだろう。ただ月曜日の開催というのが気になる所である。

(2)．アクションプラン（仮称）の策定について（資料７～８）

・５つの取り組み（５つの柱）について、みんなで共有できる分かりやすい図があると良いだろ

うということで、ポンチ絵を作成した。
・前回議論した、わかりやすいように言葉を変えるという点についても、修正して盛り込んだ。
・人、物、情報なども流れているが、そのようなものを付記した方が良いかも意見が欲しい。
・太い矢印は、基盤づくりに流れているのか、人材育成や福祉のこころに流れているのか。
　→基盤に流れている。矢印の位置の修正が必要であろう。
・コーディネート機能と学校や市民とを結ぶ矢印は、相互の矢印になるのではないか。
　→矢印を人の流れと考えた時に、確かにその通りである。
・ボラセンから離れてしまうが、左上の学校や市民と、右上のボランティアグループを結ぶ線もあるだろう。
　→動きとしてはあるだろう。ボラセンの機能として何があるか、この図で説明ができているかどうかが大事だろう。
・中央の三角錐が不安定に見える。円柱でも良いのではないか。
　→もっと太めでも良いだろう。人が集まっていく、集中していくイメージを表している。
　　コーディネート機能をもっと下げて、円柱にしても良いだろう。
・円柱の中に、個人の相談・団体の相談と入れても良い。
　→コーディネート機能に、何が上がっていくのかを記しても良いだろう。
・右上のボランティアグループの部分に施設や企業も入ってくるのではないか。これら以外にあてはまるものはあるのか。
・「ゆめこらぼ」は入っているが、「りんく」はどの位置に入ってくるのか。
入れるならすべて入れる、入れないなら入れないで統一した方が良いだろう。
　→ボラセンに特化した図として考えているが、りんく、ふれまち、ほっとネットなどの人の行き来を入れた方が良いのだろうか。
・業務の中で、例えばコーディネート機能として、ほっとネットなどとの行き来はあるか。
　→ほっとネットに相談があった際に、ほっとネット推進員と、ボラセンを通じて紹介したボランティアが、一緒に活動する場合もある。
・人材の育成にも強く関係するところだろう。かなり近いところにあるならば、入れても良い。
他にも施設やボランティアの受け入れをしたり､活動の舞台になるところをどう位置付けるか。
・左上の学校や市民の部分は「担い手」のイメージで作ったのだろうか。
　→そのようなイメージで考えている。
・外部からの矢印は、どのような意味を表しているか。
　→外部から様々な人がやってくるというものを表したものになっている。
・ここまでを整理すると、①矢印の向きは全て双方向で良い、②施設やボランティア活動として具体的につながっているところ・市民・組織をどうするか、③りんくなどのつながりが深い部署が行っているボランティア活動についてどうするか、の３点が挙げられる。
　→りんく、ふれまち、ほっとネットは一つの枠にまとめることができるのではないか。
・ボラセンだけを取り上げて図にしているのなら、ゆめこらぼも含めて各部署の名前は必要ないかもしれない。他部署の名前が掲載されても、名前だけでは何をしているのかわからない。
・これは誰にあてて作成しているのか。
　→基本的には全く知らない市民にもわかるように作るのが望ましいと考える。
　→そうなると注釈をつけて記さないとわからないだろう。ただ、スペースとして収まりきらなくなるかもしれない。
　→イメージとできたのは、「基盤」と「基盤の上にあるもの４つ」が、ボラセンを表している

ので、そのボラセンが外部とどのようなつながりを持っているかを表現できるような図になれば良い。そして、知らない言葉に説明が付いたら良いのではないか。

・図にして表す取り組みに関してはいかがだろうか。

→言葉よりもわかりやすい。

→ぼらんてぃあ倶楽部（第 100 号）の 1 面も参考になるのではないか。

→これはコーディネート機能が中心の説明になっているものであろう。これが中核であることが間違いないことがわかる。

・今回のポンチ絵では、５つの取り組みやその関係性がわかりづらい。

・「基盤」となっているものに、池に石を落した時の波紋のように輪を広げていけば、「基盤作り」のイメージに結びつくのではないか。

・これまで出された意見で課題が見えた。図にすることは賛同いただけたと思うので、わかり辛い点となっている、①矢印の方向の意味の確認、②５つの柱としたときに何をわかってもらうか伝わりにくい、③三角錐の関係性、④注釈　の以上４点について更に一緒に考えていきたい。

・最低限、柱立ての文言と図の文言が一致しないとわかり辛い。

・柱立ての表の５つ目の「災害対応」も、もう少し文言を足した方が良いだろう。

・実際にボラセンでやっている「災害対応」とはどんな表現がされているか。

→災害ボランティアの育成、災害ボランティアセンターの基盤作りとなってくる。

→平面的になるかもしれないが、真ん中に基盤があり、その輪にかかるように輪を 4 つ配置すると、4 つと隣り合ったものが重なり合ってくると補足の項目が増やせるのではないか。

・「災害対応」とは、西東京市での災害を想定するのか、他の地域での災害なのか。

→基本は西東京市での災害を考えている。他の地域での災害については、支援ということもあるが、最終的には西東京市内での活動をより良くするための経験としてとらえている。

→災害ボランティアセンターの仕組み作り、災害ボランティアをする人材育成がボラセンに求められている部分だろう。

・「災害対応の仕組み作り」という表現はどうだろうか。

・「災害ボランティア」として落とし込んでも良いのではないか。

→避難所は避難所のこととして他の機関がやっている。災害ボランティアはボラセンが先頭に立ってやっているので、言葉として出してしまっても良いだろう。

→「ボランティア」という言葉を入れた方がわかりやすいだろう。

・わかりやすくという点では、柱立てと同じ用語を使ってわかりやすくする、図のあり方として平面がわかりやすいことなどを踏まえて作り直していきたい。

・機能を共有できた際には、目標を言語化し、今まで実施してきた事業がその目標に向かっているかを確認したい。また、行動ができる計画作りに結び付けていきたい。

４．そ　の　他

(1)．次回運営委員会開催日程について

■開催日時：平成３０年３月１３日（火）１８時３０分～２０時３０分

■開催場所：田無総合福祉センター４階　第３会議室

●以上をもって平成２９年度第５回運営委員会の審議、協議を終了し、閉会した。